

# 2012年 暮らしと協同の研究所 第20回総会記念シンポジウムのご案内

日時：6月30日（土）13：00～シンポジウム 17：50～総会 18：40～懇親会  
7月 1日（日） 9：30～分科会

会場：コープイン京都（全体会・分科会） 松井本館（特別分科会）

6/18(月)  
申込締切

## 「協同の価値を掘り起こす～生協の針路を展望するために～」

### 開催趣旨

東日本大震災をはじめとする自然災害・事故を契機に、人と人が助け合って生きていくことの大切さや、私たちがくらす地域社会を豊かに育むことの重要性が再認識されています。さらには、国連が本年を「国際協同組合年」と定めたように、疲弊する経済・社会を再生する重要な主体として協同組合への期待が高まっています。実際、東日本大震災の被災地の現場では、被災者を支えるために食料品などの生活物資の供給に生協をはじめとする協同組合が大きく貢献し、協同組合どうしのネットワークも生まれつつあります。しかしその一方で、大災害に乗じて急進的に農林漁業や地域経済を変革する動きが前にも増して強まりつつあり、私たちのくらしや地域社会の秩序を混乱させようとしています。

このような状況の下で協同組合全般を見渡したとき、株式会社とは異なる基本特性を持ち数多くの歴史的な経験と世界共通の原則を有する協同組合が、真に協同の力の受け皿となっているといえるのでしょうか。職員は日々の業務や事業計画を達成することに追われ、役員は組織を維持・防衛することが目的となっているように見えます。組合員は自らが協同組合の構成員であることの自覚が薄れ、その多くが単なる事業の利用者（お客さん）に陥っているようです。こうした状況を生み出している原因の一つは、協同組合の関係者が外側に目を向けなくなり、組織の内側から事業・経営のみをみている点にあると思われます。言い換えれば、協同組合の組織や事業を単一のモノサシで評価しようとする姿勢が顕著になり、法制度もこのことを求め、それに応えようとする傾向が強くなっているからではないでしょうか。

そもそも協同組合とは、経済や社会が抱えるさまざまな問題をくらしの観点から解決していくために、そこに集う仲間が大切にしている思いや願いを、力を合わせて実現していくしくみです。私たちは今一度、くらしや経済、地域社会に潜む協同の価値に光を当ててみる必要があります。それも単一のモノサシではなく、いろいろなモノサシを使いながら協同の価値を掘り起こし、そのプロセスも含めて現代的に評価して見る必要があります。こうした作業を踏まえたうえで、協同の価値をくらしの向上や豊かな地域社会づくりへと結実させるために協同組合としての生協の針路を展望し、そのしくみを再構築していかなければなりません。

このような問題意識に立って第1日目のシンポジウムでは、中堅・若手の研究者が、生協の事業や活動にとって重要な消費・購買行動、生産者との取引、地域社会（とりわけ条件不利な地域）、公益の追求といった場における協同の価値について考え、それぞれのモノサシを当てながら掘り起こすことを試みます。第2日目の分科会では、第1日目の内容とも関連づけながら、組合員のくらし、農村社会、医療や福祉の現場で起こっているさまざまな動きを学びながら、協同の価値を確認し、生協としての関与のあり方について考えます。

しばしば、協同組合論と実践現場との間に対話がない、と言われる。協同をめぐる考え方にも世代や立場によって違いがあるかもしれません。研究者と実践家、中堅・若手とベテラン、消費者と生産者など、さまざまな人たちが集うことによって対話を深め、生協の針路を考える第一歩にしていきたいと思えます。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

シンポジウム実行委員長 北川 太一

13:00 開会挨拶

13:10 **シンポジウム**

**基調報告** (コーディネーター解題)

「協同の価値を掘り起こす～今日の意味とアプローチ～」 北川 太一氏 (福井県立大学)

趣旨：近年の研究所における総会シンポの議論も整理しつつ、「協同の価値を掘り起こす」ことの今日的背景、意味、課題への接近方法、生協・協同組合の針路との関係性などについて仮説的に提起し、シンポジウムの解題を行う。

14:00 **問題提起** (30分×4)

1. 「現代の消費者における倫理的な意識と行動」

玉置 了氏 (近畿大学)

趣旨：現代の消費者は、商品の生産・流通が地球環境の持続可能性を考慮しているか、公正な取引によって実現しているかを意識している。しかし消費者は、そこにファッション性や共感を求め、また自らの生活の儉約を意識しつつ倫理的な商品を購入しているのである。このような現代の倫理的な消費の実態に触れた上で、生協の事業の付加価値や活動の駆動力としての倫理的消費について議論を展開する。

2. 「農業者との取引における協同の価値

～産直から産消提携へのモノサシ～

辻村 英之氏 (京都大学)

趣旨：市場価格での取引では農業の持続性が危ぶまれるようになり、生協の産直も、産消の協同・提携へと発展し、農業者を買い支えることが求められている。そこで、フェアトレード(公正取引)やCSA(コミュニティが支える農業)による支え方(提携型取引)をモノサシとし、生活クラブ生協の共同開発米事業の取引を評価することから、産消提携への発展の針路を展望する。

3. 「生協と産地の地域再生～事業連帯の可能性～」

秋葉 武氏 (立命館大学)

趣旨：生協の事業は、かつての単協中心から事業連帯(連合)にシフトしている。こうした流れは批判的に語られることも多い。しかし、事業連帯ならではの産地の6次産業化、産地と都市の組合員の繋がりが生まれている。こうした動向について、具体的に紹介すると共に、生協の事業連帯の新しい可能性を検討してみたい。

4. 「公益の追求と非営利・協同の価値を考える

～医療分野を事例に～」 高山 一夫氏 (京都橘大学)

趣旨：医療制度をはじめ、これまで公的な制度の枠内で、主として非営利・協同組織によって担われてきた分野において、市場化・営利化の波が押し寄せている。本報告では、公益の追求と市場化・営利化への対抗という観点から、医療における非営利・協同組織の役割を考えたい。

16:30 **コメント～討論～まとめ**

コメント1：福永 晋介氏 (日本生協連産直事業委員会代表委員・京都生協)

コメント2：小形 巧氏 (コープ北陸事業連合代表理事 専務理事)

コメント3：吉中 丈志氏 (京都民医連中央病院院長)

17:40 閉会

17:50 **第20回総会**

18:40 **懇親会**

20:10 中締め

**第1分科会** 会場：コープイン京都

「組合員の『購買』の視点から協同の価値を考える」

コーディネーター：杉本 貴志氏（関西大学）

趣旨：消費者が集まり、協同の力で「安心・安全」を追求し、確保してきたのがこれまでの生協であるが、いま消費者が生協にもとめているのは「安心・安全」に限られるものではない。消費者の意識と関心の多様化は、生協の事業にとって、解決すべき大きな課題となっているが、同時にそれはまた新しい可能性を与えるものでもある。「購買の協同」によって、生協にできることは何か。「買い支える運動」、「消費の倫理」、「組合員の現実の意識と行動」という3つの視角から、消費者が協同して購買することの意味と可能性を考える。

話題提供：六角 薫氏（パルシステム神奈川ゆめコープ常任理事）

金 亨美氏（(財) iCOOP 協同組合研究所理事）

岡本 哲弥氏（京都橘大学）

**第2分科会** 会場：コープイン京都

「農業・農村の現場から協同の価値を考える～農業・農村再生に生協はどう関与するか～」

コーディネーター：北川 太一氏（福井県立大学）

趣旨：近年、農業の縮小、農村地域の疲弊が進むとされる一方で、中山間地域を中心に住民主導のむらづくり、活性化に向けた動きがみられる。そこでは、地域の生活をみんなで守ることを基本に、資源・環境の保全、人々の交流、さらには小さな経済起こしへと展開しているところに特徴がある。農業・農村の現場にみられる協同の価値とは何か。長年、リーダーとして役割を果たしてこられた方のお話を聴きながら考える。

話題提供：辻駒 健二氏（広島県安芸高田市川根振興協議会会長）

泉 清毅氏（京都府舞鶴市農業委員会副会長／京の田舎ぐらしナビゲーター）

コメント：中村 貴子氏（京都府立大学）

**第3分科会** 会場：コープイン京都

「地域のくらしから協同の価値を考える～福祉生協と医療生協を事例に～」

コーディネーター：上掛 利博氏（京都府立大学）

趣旨：地域のくらしにみられる変化や課題に、協同組合という“しくみ”はどのように関わることができるのか、その考え方と手法について、協同組合に共通する本質にたちかえって「いろいろなモノサシ」で検討する。そのために、①地域ごとのニーズに対応して小規模で多様な“協同労働”でこたえている「福祉クラブ生協」（神奈川）と、②『協同っていいかも』（西村一郎著）や映画『だんらんにつぼん』でも話題の「南医療生協」（愛知）から報告いただき、「協同の価値」に基づく“しくみ”の意味を考え、その可能性を探る。

話題提供：関口 明男氏（福祉クラブ生協専務理事）

村上 芳子氏（福祉クラブ生協副理事長）

成瀬 幸雄氏（南医療生協専務理事）

コメント：橋本 吉広氏（地域と協同の研究センター理事）

**特別分科会** 会場：松井本館（コープイン京都の北隣）

「東日本大震災と協同組合～福島の実況と協同組合間の連帯を考える～」

コーディネーター：浜岡 政好氏（佛教大学）

井上 英之氏（大阪音楽大学）

趣旨：東日本大震災から1年余が経過したが、被災地域における暮らしの状況はどうなっているだろうか。今回は、現在も依然として被災が進行中の福島での暮らしの実況と暮らしの再建に向けた農協、医療生協、購買生協などの取り組みに焦点をあてて、被災地域における暮らしの再建と協同組合間の協同や非営利組織等との連帯の意味や可能性について考える。

話題提供：菅野 孝志氏（新ふくしま農協代表理事専務）

宮田 育治氏（郡山医療生協専務理事）

佐藤 一夫氏（福島県生活協同組合連合会専務理事）

コメント：石井 秀樹氏（福島大学）

## お申し込みにあたって

### ●参加費・申込方法

区分		両日参加	1日参加	懇親会	申込み方法
会員	個人会員	3000円	2000円	5000円	同封はがき『第20回総会記念シンポジウム出欠確認』を必ず郵送ください。
	団体会員				「参加申込用紙」をFAXもしくは郵送でお送りください。
非会員(当日までにご入会の場合は会員価格になります)		8000円	5000円		
学生・院生(社会人除く)		2000円	1000円		

※ 参加費はなるべく事前にお振込みをお願いします。振込先は参加申込書に記載。

※ この機会にご入会の場合、期中のため今年度の個人会費は5000円(12年6月～13年3月分)です。

●締切日・・・6月18日(月)必着

●定員・・・150名 会場の都合上、定員になり次第受付を締め切らせていただきます。

●宿泊斡旋・・・コープイン京都(シングル・朝食付)7600円(注)①部屋数に限りがありますので先着順で承ります。

②6/20以降のキャンセルは、規定にしたがってキャンセル料がかかりますことをご了承ください。

## 会場のご案内

# コープイン京都 ご案内略図

「松井本館」(特別分科会)は、「コープイン京都」の北隣です。

The map shows the venue area in Kyoto, centered around the intersection of Uchigomori Street (烏丸通) and Yagoto Street (四條通). Key landmarks include the 'Coup-in Kyoto' building (highlighted in red), 'Matsui Honkan' (highlighted in red), 'Honnin-ji Temple' (本能寺), 'Nishiki Market' (錦市場), and 'Koyasu Station' (河原町駅). Major streets like Uchigomori Street, Yagoto Street, and Nishiki Street are clearly marked. A callout box indicates that 'Matsui Honkan' is located north of 'Coup-in Kyoto'.

コープイン京都へようこそ！  
 電車でお越しのお客様には、阪急「烏丸駅」市営地下鉄「四條駅」からのご来館をおすすめします。四條通り地下街13番出口が最寄り出口です。また手荷物をおもちの方は、大丸のエスカレータで地上へ出て、柳馬場通りに向かうのもお勧めです。  
 また京都駅からは京都市バス5番に乗り、「四條高倉」で下車して頂くと大変近いです。

くらしと協同の研究所

〒604-0851 京都市中京区夷川通烏丸東入る西九軒町 291

TEL: 075-256-3335 FAX: 075-211-5037

E-mail: [kki@ma1.seikyone.jp](mailto:kki@ma1.seikyone.jp) (ma1の“1”は数字) URL: <http://ha1.seikyone.jp/home/kki/>